「中国荒廃草地の砂漠化防止と持続的利用に関するワークショップ」

中国の草原における砂漠化の進行は東アジアに黄砂被害の深刻化をもたらしています。さらに、このような草原荒廃は中国における草地農業の衰退にもつながり、国際的な飼料原料の需給状況にも大きな影響を与えることが心配されます。そのため、人為的砂漠化の大きな要因となっている家畜が介在した過放牧等による草地荒廃問題を取り上げ、今後、中国の草地荒廃を抑え、砂漠化を防止するためにはどのような研究あるいは方策が必要かを検討すべく、10月７～８日の２日間、国際農林水産業研究センター(JIRCAS)において国内外の73名の参加者（うち中国からの参加者は10名）を得て、「中国荒廃草地の砂漠化防止と持続的利用に関するワークショップ」が開催されました（畜草研とJIRCASの共同主催です）。

今回、基調講演および地域報告において紹介された草原は吉林省、内蒙古、黄土高原、チベット高原、新疆・アルタイなど、中国において畜産業が営まれている主要な草原を網羅するもので、この問題の持つ質的な多様性と深刻さとが窺われるものでした。また、ワークショップのほぼ半分の時間をかけて行われた総合討議では草原荒廃問題に対する基本認識として、1) 黄砂はわが国にとって決して対岸の火事ではないこと、2) 国際的飼料需給の逼迫による我が国畜産業への影響が憂慮されること、3) 砂漠化対処条約に示された国際貢献の責務を果たすことに研究サイドからも取り組むべきこと、の３点が確認されました。さらに、日中共同研究のスタートに向けてのネットワーク作りをJIRCASが中心となって行い、そこにおいて地域住民の自立を支援することを念頭に置いてプロジェクトの枠組みを検討していくことが了承されました。

今回のワークショップ開催を契機に、今後、中国との研究交流がますます活発に、そして有意義なものとなることを期待したいと思います。

（企画調整部 研究交流調整官　寺田文典）

総合討議

JIRCAS岩本理事長による開会の挨拶

基調講演を行う王　濤博士
（前：司会の押尾JIRCAS畜産草地部長）